

エゾシカ

頭胴長90～190 cm，オスの冬季の平均体重は120～130 kgである。わが国に分布するニホンシカのなかで最も大きい亜種である。北海道では阿寒・大雪・日高地域の生息密度が高い。夏毛は茶色で白い斑点があり，冬毛は灰褐色となる。広域にわたる季節移動を行う個体は直線距離で50kmから100km動く。



1. エゾシカ。虻田。1998/5.

【学名】 *Cervus nippon yesoensis*

【分類】 ウシ目 (Artiodactyla)，シカ科 (Cervidae)

【分布】 北海道；同一種は，本州，四国，九州のほか，ロシア沿海地方，中国東部，朝鮮半島，台湾に分布する。

【特徴】 北海道に分布するシカ類は本種だけであり，間違うことはない。

【生態】

春から初秋にかけては草本類を中心にして広葉樹の葉や小枝を食べ，晩秋から冬にかけては，枯れた草本類をはじめ，ササや木本類の小枝や樹皮を食べる。出産は5月～9月で，ふつうは1仔を産む。10歳以上生き延びるシカは少ないとみられる。

【加害樹種】 針葉樹と広葉樹のほとんどの樹種をかじる。食害を受けやすい樹種と受けにくい樹種がある。とくに幼若木が好まれ，樹種としてはニレ類などが好まれる。

【被害と防除】

シカの場合，激害が多発する地区では，有害鳥獣駆除や狩猟などによって生息数を減らすことがまず必要である。また，シカは特に苗木や幼木を好むので，植栽木には忌避剤を散布（塗布）したり，合成樹脂製のネットなどの防護物を物理的に幹に巻く（あるいは覆う）とよい。忌避剤としてはジラム剤やチウラム剤などが使われている。一方，ネットなどを巻くやり方は中大径木の樹皮食害にも適用できる。また樹皮食害や角こすりによる被害に対しては，枝打ちした枝条を幹にテープで巻き付ける方法も安価に実行できる。被害対策は現在なお，さまざまに試験されている。



2. 低木の幹先端の食害.

浜中. カラマツ. 1999/5/13.



3. 幹の角こすり.

新得. カラマツ. 1992/5.



4. 切歯の痕.

新得. カラマツ. 1992/5.

【文献】

阿部永ほか(1994) 日本の哺乳類. 195pp. 東海大学出版会, 東京.

北海道 (2001) エゾシカ保護管理計画 (素案). 8pp. 北海道, 札幌.

桑畑勤(1996) 動物の林業被害ハンドブック(獣類編). 13pp. 全国森林病虫獣防除協会, 東京.

中田圭亮(1998a) ミズナラの獣害と防除方法. (広葉樹育成ガイドーミズナラ林の造成. 独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場監修, 191pp, 北海道林業改良普及協会, 札幌). 150-156.

中田圭亮 (2000a) 北海道におけるカンバ類とヤチダモの獣害と防除方法 (I). 森林保護, 275:2-4.

中田圭亮 (2000 b) 北海道におけるカンバ類とヤチダモの獣害と防除方法 (II). 森林保護, 276:15-16.

農林水産省森林総合研究所鳥獣管理研究室 (編) (1992) 哺乳類による森林被害ウオッチング-加害動物を判定するために.

29pp, 林業科学技術振興所, 東京

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾシカ ezosika/

kaisetu.htm

「文章」中田圭亮, 北海道立林業試験場, 2001/12/10.

sika1.JPG, tunotogi.JPG, hagata.JPG

「写真1, 3~4」中田圭亮, 北海道立林業試験場, 1992.

higai1.JPG

「写真2」寺澤和彦, 北海道立林業試験場, 1993.